# 検 査 説 明 書（FAX 検査予約用）

検査名

上部消化管内視鏡検査

２０　　年　　月　　日

検査について説明致しますが、分からないことがありましたらご遠慮なくご質問下さい。

## 1.検査目的

## 2.検査方法

内視鏡検査を円滑に行うために、消化管の中の泡立ちを減らす薬（消泡剤）を飲み、咽頭（ノド）の局所麻酔をし、胃腸の動きを抑える薬を注射してから、内視鏡を口から食道、胃、十二指腸にいれて送気しつつ、消化管を膨らませながら観察します。そのために、咽頭（ノド）の違和感、圧迫感、閉塞感やお腹の膨満感、伸張感などがあります。検査時に病変がみつかった時は、詳しく調べる為に、色素を撒いたり、細胞を採ったり（生検）する事があります。出血などがある場合は、止血をする事もあります。

## 3.検査前後の注意　（別にも説明致します。）

原則的には、空腹の状態（絶飲食）でおこないます。しかし、内服中の薬がある場合、薬によって中止しない方が良いものは、少量の水で、飲んで頂くことがあります。

逆に、薬によっては（ワーファリン、パナルジン等の血液をさらさらにする薬－抗凝固剤等)、何日も前から飲まないようにして頂く事もあります。

胃腸の動きを抑える薬（鎮痙剤）は、心臓病、緑内障（目の病気)、前立腺肥大症等の人には使えませんのでお申し出下さい。アレルギーのある方もお申し出下さい。

鎮痙剤の作用で目がチカチカしたり、動悸がしたりします。検査後の運転は控えて下さい。麻酔等の薬の効き目がとれるまでは食事は出来ません。

色素を使う検査をした時には、検査後胸焼けがしたり、尿や便に色が付いたりします。

生検をした後で稀に出血する事があります。万一、血液やコールタールのような物を吐いたり、下から出たり（下血）した場合は直ぐに病院に連絡してください。

その他、胸焼けが長く続いたり、強い痛み等、何かありましたら病院に連絡してください。

## ４.検査に伴う合併症等

上部消化管内視鏡検査に伴う合併症の頻度は、全国集計で０．００７％でした。

主なものは、穿孔（胃の壁に穴があいて腹膜炎を起こします)、出血、アレルギー反応等です。

万一、上記のような合併症が起こった場合は、大事に至らぬよう万全の対応を致しますが、必要に応じ入院や緊急の処置、手術を要する事があります。

松戸市立総合医療センター　消化器内科　　医師名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 印

紹介元
医療機関名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿　医師名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿ 印

---

# 検 査 同 意 書

年　　月　　日生

私＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿は、上記検査について担当医師から十分な説明を受け、その内容及び危険性について理解しましたので、検査の実施に

☐ 同意します　　☐ 同意しません

２０　　年　　月　　日

患者様氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿

立会人氏名 ＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿＿（続柄　　）